

科目ナンバリング		G-LAS13 80007 LJ90									
授業科目名 <英訳>		健康情報学Ⅰ Health InformaticsⅠ				担当者所属 職名・氏名		医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 特定教授 高橋 由光 非常勤講師 杉森 裕樹 非常勤講師 園田 由紀 非常勤講師 若尾 文彦 附属病院 特定教授 加藤 源太 非常勤講師 黒田 聡 非常勤講師 藤本 修平			
群	大学院横断教育科目群				分野(分類)		健康・医療系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	金2			配当学年	大学院生	対象学生	全学向	
（医学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）											
【授業の概要・目的】											
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。											
教育・学習方法 講義形式と実習											
【大学院横断教育の概要・目的】											
健康と医療を巡る情報の解釈・活用能力である「ヘルスリテラシー」は、万人に共通する必須の社会的技能である。本講義では様々な健康・医療の課題を取り上げ、「ヘルスリテラシー」、そして「ヘルスコミュニケーション」の理解を深める。											
【到達目標】											
・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。											
【授業計画と内容】											
（ 変更の可能性があるので開講日に確認して下さい）											
第1回	10月3日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（1）（中山）									
第2回	10月10日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（2）（中山）									
第3回	10月17日	インターネットとe-ヘルス（高橋）									
第4回	10月24日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション（中山）									
第5回	11月7日	ナラティブ情報の意義と可能性（中山）									
第6回	11月21日	医療におけるデータの二次利用の課題（加藤）									
第7回	11月28日	健康情報を巡る話題:テクニカル・コミュニケーションの視点から（黒田）									
第8回	12月5日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備（若尾）									
第9回	12月12日	質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考え									
健康情報学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓											

健康情報学Ⅰ(2)

る(中山・藤本)

第10回 12月19日 AI時代の健康情報を考える(中山)

第11回 1月9日 健康情報ワールドカフェ(中山)

第12回 1月16日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション(杉森)

第13回 2月5日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(エムビーティーアイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分(園田)

第14回 2月6日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ:MBTI(エムビーティーアイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時(園田)

第15回 2月13日 総合討論・個別発表 「健康情報学Ⅰを履修して」(中山)

「健康情報学Ⅱ」の講義と重ならないように開講します。

[履修要件]

疫学または根拠に基づく医療(evidence-base medicine: EBM)の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート提出80%、発表20%

[教科書]

講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入(4200円程度)

[参考書等]

(参考書)

中山健夫 著 『健康・医療の情報を読み解く(第2版)健康情報学への招待』(丸善書店,2014年) ISBN:9784621087329

中山健夫 著 『健康情報は8割疑え!:京大医学部のヘルスリテラシー教室』(法研,2021年) ISBN:9784865138160

中山健夫・杉森裕樹 監訳 『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店,2015年) ISBN:9784621089545

中山健夫,藤本修平 編者 『実践 シェアード・ディシジョンメイキング 改題改訂第2版』(医事新報社,2024年) ISBN:97847849146402

宮原 哲・中山 健夫 著 『治療効果アップにつながる患者のコミュニケーション力 医師との会話・失敗例と成功例をケースごとに解説』(朝日新聞出版,2023年) ISBN:9784023322790

[授業外学修(予習・復習)等]

予習よりも復習に十分時間を取ること

[その他(オフィスアワー等)]

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目(学部・学科名)]

健康情報学Ⅰ(3)へ続く↓↓↓
